令和5年度 松本蟻ケ崎高等学校 重点目標

I 教育目標

教育方針	学 校 教 育 目 標
1日本国憲法と教育基本法に則り、自由・平等・博愛と自主・自立・自存の精神を涵養する。 2より文化的で、暮らし易い社会の形成者として、	 日々の授業を重視しながら、部活動との協調的展開を志向する。 生徒の多様な進路希望を実現すべく、創意工夫と相互協力を旨とした教育を実践する。 生徒の自主活動を効果的に支援し、偏りの無い人間像の確立に努める。 いじめや体罰のない、生徒が安心して学校生活をおくることができる安全な学校づくりをする。
希望と未来のある世界 の構築に実践的に参画 することの出来る、個性 豊かな人材を育成する。	今年度の重点目標1 文武両道を目標とした時間の有効活用を図る2 多様な進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む3 主体的な挨拶と清掃に取り組む4 安心安全な学校を目指す

Ⅱ 今年度の重点目標に対する「評価項目」

【1 文武両道を目標とした時間の有効活用を図る】

- (1)生徒が自ら具体的な学習目標を持つことができるよう、教科指導と進路指導を行う。
- (2)部活動や生徒会活動に積極的に参加しながらも、家庭学習の時間を確保できるよう環境づくりを進める。

【2 多様な進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む】

- (1)キャリア教育の観点から、生徒の主体性を喚起し、協調的・発展的助言をする。
- (2) 進路実現にかかわる有効な情報・資料等を的確に提供する。
- (3)外部の講師による講演会等を実施し、生徒の進路意欲を喚起する。

【3 主体的な挨拶と清掃に取り組む】

- (1)自然な挨拶が出来る校風をめざし、良好な人間関係を構築する。
- (2)SDGs に対する意識を喚起し、無駄の削減や、ゴミの処理量を減少させる。
- (3)全員が主体的に清掃を行えるよう徹底する。

【4 安心安全な学校を目指す】

- (1)安心、安全の学校づくりをするため、懇談会等を利用して状況把握をする。
- (2)いじめ・体罰の未然防止のため、常に生徒・職員の意識の啓発に努める。

令和5年度 松本蟻ケ崎高等学校 重点目標の自己評価・関係者評価の結果

評価 A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

項目	評価の観点	自己 評価	関係者 評価	成果と今後の課題・改善策				
1	文武両道を目標とした時間の有効活用を図る							
	(1)生徒が自ら具体的な学習 目標を持つことができるよ う、教科指導と進路指導を 行うことができたか。	В	В	学習目標は持てていると思うが、生徒の「主体的な学び」に向けて教員間の研修や授業の紹介があればいい。受験レベル設定として、共通テスト及び私大中堅以上を目標としたが、成就率がある程度以上の意識層と受験を意識しない層の大きく二層に分かれており、個々の進路に対応した指導が今後更に必要。				
	(2)部活動や生徒会活動に積極的に参加しながらも、家庭学習の時間を確保できるよう環境づくりを進めることができたか。	В	В	文武両道に励んでいるが、部活動によっては多忙を極めており、学校全体で部活動と休みのバランスが十分とれているかは 疑問な面がある。各教科それぞれ課題を出しているために、適 切な量なのかが職員もわかりづらい現状がある。生徒が複数の 教科で十分な学習時間を確保できるよう配慮できるとよい。				
2	多様な希望に沿った進路	各実現に	向けた	カリキュラムの改善に取り組む				
	(1)キャリア教育の観点から、生徒の主体性を喚起し、協調的・発展的助言をすることができたか。	В	В	探究では、各生徒のテーマに関連した書籍や情報を集め提示やフィールドワーク先の候補を一人一人アドバイスを行い、情報収集の仕方やアポの取り方などアドバイスをしている。授業では、生徒の関心のある分野の書籍や話題、NPOや大学等の情報を折に触れて紹介し、生徒自身が考えるきっかけを作っている。				
	(2)進路実現にかかわる有効な情報・資料等を的確に提供することができたか。	В	В	進路に関して学校から生徒への主な情報源は進路通信であり、 進路に関する情報をタイムリーに伝えている。一方で、学年に より取り組みに差があるのが課題。クラスでは、受験にシフト した雰囲気に敏感に反応するような配慮の必要な生徒には、個 別対応をしている。進路室が教室棟から離れているため、進路 情報について、昇降口や中央階段にもあるとよいのではないか と考える。				
	(3)外部の講師による講演会等を実施し、生徒の進路意欲を喚起することができたか。	В	В	進学意欲の喚起を目的とした講演会等の充実について検討するのはどうか。コロナも落ち着いてきたので、大学やOB、保護者からの講演や講義を増やしても良いと感じる。				
3	主体的な挨拶と清掃に取り組む							
	(1)自然な挨拶が出来る校風 をめざし、良好な人間関係 を構築することができた か。	В	В	教師から声出し実践を行い、部活生徒にも礼節に関する注意は 日常的に注意喚起を行っている。 挨拶ができる生徒と、下を向いて歩いている生徒が見受けられ る。まずは教員同士の気持ちの良い挨拶やコミュニケーション が増えると生徒間にも波及していくかと思われる。				
	(2)SDGs に対する意識を喚起し、無駄の削や、ゴミの処理量を減少させることができたか。	В	В	部活動の生徒とも一緒に校内環境整備の一環で草取りとゴミ 拾いを定期的に行っている。 生徒は限られた環境でよくやっているとは思うが、昨年比など のデータがあるとより取り組みやすいのではないか。				
	(3)全員が自主的に清掃を行えるよう徹底することができたか。	В	В	全体的には、まじめに清掃している生徒が多い印象。清掃監督の分担区では、日常の清掃では、今週は休みという班は作らず毎日全員が行うスタイルで指導し、役割分担を指定して任務として取り組ませている。 女子トイレの清掃がやや不十分だと感じる。				
4	安心、安全な学校作りを目指す							
	(1)安心、安全の学校作りをするため、懇談会等を利用	В	В	全てを家庭に連絡してという義務教育学校のスタイルではないが、家庭には連絡を直接入れて保護者と連携している。				

して状況把握をすることができたか。			
(2)いじめ・体罰の未然防止 のため、常に生徒・職員の意 識啓発に努めることができ か。	В	В	職員だけでなく、生徒を対象とした研修の機会があると良い。 いじめや体罰とは、直接関わらないが、悩みを抱えている生徒 が多いように感じる。

【学校関係者評価委員からの主な意見】

のデス)

- ・社会人として県外や地元で活躍しているOBを招いて、進路についてのトークセッション的な企画を開催してみてはいかがでしょうか。
- ・学習時間よりも、学習の質・方法・意欲!! 部活で培ったものは大きい(私の人生を振り返って、ここまで来られたのはやっぱり部活で得られたも

同窓会は、母校のために「心と物」愛を持ってお届けします。

- ・蟻ケ崎高校の部活動は非常に活発で、各大会等の活躍から地域でも高く評価されていると思います。生徒の部活動に取り組む姿勢が優れており、努力を積み重ねた成果ですが、顧問教諭の優れた指導力によるところが大きいと思います。いくつかの部活動は蟻ケ崎高校の特徴でもあり、部活動への入部を希望して蟻ケ崎高校を選択する生徒もいることから、1校における在任期間の限度については、生徒、顧問教諭の希望をできる限り叶えることができるような制度であることが望ましいのではないかと思います。
- ・生徒個々に対する進路指導は担任教諭の生徒との関わり方、指導力にかなり格差があると思います。進 路指導について、担当教諭が自己評価を実施するなどして振り返りの機会を設けることや生徒からの 意見を聞き、その結果をフィードバックするなど、教諭自身が気づくことができる機会を設けることを 検討されても良いのではないかと思います。
- ・能登半島地震では耐震補強した寺院が倒壊していました。蟻ケ崎高校は校舎が古く、耐震補強をして あると言っても、能登半島地震のような地震には、耐えられないのではないかと心配です。県立高校 の再編第3次整備計画と同時に、蟻ケ崎高校の校舎の建て替えを検討して欲しいと思います。
- ・中学生が目標にしたい高等学校として様々な魅力を発信することは大変だと思いますが、書道パフォーマンスに並ぶ生徒の活躍を期待します。
- ・授業づくりウィークでは多くの授業を参観させていただきましたが、教師主導の授業が多く生徒どう しの協働の学びがあるといいと思いました。
- ・自己評価の結果からは生徒保護者評価との比較が分からなかったのでコメントしにくいところですが、読書への取組や進路指導等、職員が努力されていることが伝わってきました。18歳の成人としての自立について更に学校としての生徒の育成に向けたロードマップ(グランドデザイン)ができるといいとも感じました。中高連携は今後ともよろしくお願いいたします。